夕刊フジ 掲載日：2021年1月14日（13日発行）

令和を変える！

関西の発想力

殿村美樹
PRプロデューサー

とのむら・みき　株式会社TMオフィス代表取締役。同志社大学大学院ビジネス研究科「地域ブランド戦略」教員。関西大学社会学部「広報論」講師。「うどん県」や「ひこにゃん」など、地方PRを3000件以上成功させた〝ブーム仕掛け人〟。

環境にも大阪人にも優しい〝エコ〟プレッソカップ

新年早々、またテレワーク続きで気分が萎えている人、多いのではないでしょうか。そんな時に頼りになるのが濃いコーヒー。特に苦味の効いたエスプレッソは気分を引き締めてくれます。ただケチな大阪人には、量は少なく価格は高い独特のスタイルが馴染みません。コスパ最重視のDNAが「なんで少ないのに高いねん」と反発するのです。

しかし、そんな大阪人をエスプレッソ好きに変えた女性がいます。大阪市で「RJカフェ」を営むテンセンス社長の林真智子さん。店主のご主人が美味しいエスプレッソを淹れる達人なので、なんとかお得感を出して売ろうとエスプレッソカップをクッキーで作り、食べられるようにしてしまいました。

それだけではありません。「こんな苦いコーヒー、いらんわ」と言われないようカップの内側に砂糖を塗り、クッキーにもコーヒーがしみ込むように工夫しました。つまり林さんはご主人のエスプレッソを、ストレート、砂糖が溶けた甘味、さらにはクッキーに沁みた深い味と三段階に楽しめ、最後にクッキーのカップも味わえる4倍おいしいメニューに変えたのです。

このアイデアは大阪人にバカウケしました。RJカフェのエスプレッソは2時間待ちの行列ができる人気メニューになり、売り上げ一気に150倍に増えました。さらに林さんのクッキーカップは評判に評判を呼び、一人歩きを始めました。他のカフェやレストランから、あの手この手で「カップを売ってほしい」と猛烈なオファーを受けるようになったのです。これを林さんはすんなりOK。店の看板メニューだけに敵に塩を送るようですが、林さんにとって看板メニューはあくまでご主人が淹れるエスプレッソ。カップを売ることに抵抗は無かったのです。

かくして林さんのクッキーカップは「エコプレッソ」という商標で、多くの店で使われるようになりました。名称の「エコ」は、カップを食べることがプラスチックゴミを減らし、環境に優しいと評価されたことを受けたもの。行政からも「ものづくり支援金」が支給されて、当初手作りで1日100個の生産が限界だったカップが、量産機械の導入で1日1000個も生産できるようになりました。さらに2020年には「ソーシャルプロダクツ賞」や「グッドデザイン賞」などを次々に受賞。SDGs（持続可能な開発目標）に適したカップと注目され、海外からも問い合わせが相次ぐようになりました。

地元信金からも表彰された林真智子さん。周囲の期待は大きい

しかし林さんは、どんなに売れてもカップの原点がエスプレッソの味であることを忘れません。ご主人も腕を磨き、さらに美味しいエスプレッソが飲める新店舗をオープンしました。それを支援するかのように林さんも新しくグルテンフリーのカップを開発し、2025年の大阪関西万博には、夫婦で世界一美味しいエスプレッソを提供したいと意気揚々。

こりゃ、不毛の地だった大阪が一転、エスプレッソの聖地に変わるかもしれませんね。楽しみです。

（隔週水曜日掲載）